

市川市立福栄中学校 令和7年度 学習の指針

教科	英語科	学年	3年
----	-----	----	----

1. 学習の目標

①学びに向かう力

自分の可能性を広げ、多様な学び方を体験しながら学ぶことを楽しむ心と主体的・協働的に学ぶ力を身につける。

②他者と関わる力

他言語の習得を通して、人と関わりながら他を認めることや様々な文化に触れながら社会の多様性を理解し、関わっていく力を身につける。

③自分で考える力

他言語を通して自分と向き合い、目的や場面、状況に応じてコミュニケーションを図る力と論理的・批判的に考える力を身につける。

④英語を使う力

他言語を通して自分の思いを伝え、他者を理解し、表現し、伝え合いながら実際のコミュニケーションで活用するための英語を身につける。

2. 学習計画

	学習内容	学習のねらい
1 学期	• Lesson1 / Join Us 現在完了形 (have + 過去分詞) 経験、継続、完了用法の復習 • Take Action Talk 1 電話でのお誘い • Lesson2 / The Power of Music 現在完了進行形 (have + been + ing) • help + A + 動詞の原形 • It is ... (for A) to ~ の用法 • Take Action Talk 2 - Lesson 3 / Cranes for Peace 受け身 (受け身 by ... の文)	○イベントの詳細について書かれた文の内容を読み取ることができる。 ○これまで経験したことなどについて、現在完了形を用いて、事実や自分の考えなどを話すことができる。 ○海外の中学生に紹介するために、最近夢中になっていることや打ち込んでいることについて、詳しい説明を付け加えて、まとまりのある内容を話すことができる。 ○環境を守るために大切なことについて、事実や自分の考えなどを伝え合うことができる。 ○習い事や趣味、部活動について現在完了進行形の肯定文・疑問文などを用いて事実や自分の考えなどを正確に書くことができる。
2 学期	• Lesson4 / Bollywood Movies 後置修飾 / be glad to ... • Lesson5 / Translating Culture 関係代名詞 (that/which/who) want + A + to 動詞の原形 • Lesson6 / Being Fair 関係代名詞 (that/which)	○好きな映画について、後置修飾 (動詞の -ing) などを用いて事実や自分の考えを話すことができる。 ○be glad to ...などを活用して、映画について書かれた文の内容を読み取ることができる。 ○関係代名詞 (that, which, who) を用いて、本について話された文の内容について聞き取ることができる。 ○手伝ってほしいことについて、want + 人 + to + 動詞の原形などを用いて、事実や自分の考えを伝え合うことができる。 ○お気に入りの場所について、関係代名詞 that, which (目的格) を用いて、自分の考えを述べることができる。
3 学期	• Lesson7 / Design for Change 仮定法 • Lesson8 / For Our Future 間接疑問	○「もしタイムマシンがあったら」というテーマについて、仮定法過去 (if) などを用いて、事実や自分の考えを正確に書くことができる。 ○話し相手と会話を続けてより良い関係を気付くために、会話を続けるためのつなぎ言葉を使いながら、トークテーマについて即興で伝え合ったり、質問に回答することができる。 ○10年後の自分について、関係疑問 (SVO)などを活用して、事実や自分の考えを正確に書くことができる。 ○筆者の考えや意見をまとめるために、外国語との関わりについて書かれた記事を読んで、要点を捉えることができる。

3. 評価

(1) 内容および方法

	評価の内容	評価の方法
①知識・技能	①定期試験 ②授業内小テスト	①定期試験の採点 ②授業内小テストの結果を成績に反映
②思考・判断・表現	①定期試験 ②授業内小テスト ③パフォーマンステスト	①インタビューテストや授業内小テストの結果を成績に反映 ②定期試験の採点 ③授業内で行う英作文やグループ活動、課題の採点を成績に反映
③主体的に学習に取り組む態度	①リフレクションシート(生徒の振り返り) ②課題・授業の取り組み方 ③授業内小テスト	①③単元の達成度を自己評価し、その後の積極的な学習への取り組み方を評価 ②授業内の活動への姿勢や課題への取り組み方を成績に反映

(2) 観点と評価の関係

			評価
A	A	A	5
A	A	B	4
A	B	B	3
A	A	C	
A	B	C	
B	B	B	
B	B	C	
A	C	C	2
B	C	C	
C	C	C	1

<評価の注意事項>

英語の授業では読む、書く、聞く、話すの4つの技能を総合的に評価するため、定期試験のみに向けて努力すれば良いというわけではありません。授業への積極的な取り組みと課題の内容、スピーキングなどのパフォーマンステスト等に全力で取り組んだ結果が最終的な評価となります。昨年度と同様の評価方法となりますが、基本的に授業で扱うもの全てが評価の参考資料となることを念頭に置き、普段の授業を大切にしましょう。

4. 教科に関するアドバイス

- ・ワークやノートを活用し、たくさん英語を書く、話す(発音する)ことを心がけましょう。特に、新しく学習する英文法や単語は声に出してたくさん音読練習をしましょう。
- ・英文を書く際のルールには注意しましょう。(受検で不正解にならないように、採点者がわかりやすいような字で書くこと)
- ・わからない単語や文法事項は辞書などを用いて積極的に調べましょう。
- ・タブレットを用いて教科書のQRコードを読み取り、音声の確認を繰り返し行いましょう。
- ・英語は、1, 2年生の基礎が大変重要です。振り返りシートを用いて自身の学習方法の見直す機会を多くしましょう。